

ゆっくりと、でも確実に居住支援協議会の設置に向けて進んでいます

この号の内容

- ① 第1回八千代市居住支援セミナー(2025年10月21日)
- ② 第3回居住支援に係る勉強会(2025年11月13日)

① 第1回八千代市居住支援セミナー(2025年10月21日開催)※対象は不動産関係事業者(概要)

- 法改正を踏まえた居住支援の動向(国土交通省 安心居住推進課)
- 千葉県の取り組みについて(千葉県住宅課)
- 八千代市の取り組みについて(八千代市建築指導課)
- 講演:ホームネット株式会社 居住支援連携室 課長 種田 聖 氏

◆ 講演テーマ

「高齢者は歓迎すべき入居者!? ~超高齢者で知っておきたいデータと居住支援~」

◆ 現状の課題

高齢者の賃貸入居は依然として難しい。

空室率は全国で約 443 万戸(賃貸用)と高止まり。

大家側は「居室内での死亡事故等」のリスクを懸念し、入居を断るケースが多い。

◆ 背景

人口減少に伴い公営住宅の管理戸数も減少し、整備が難しくなっています。

◆ 求められる支援策

民間賃貸住宅が高齢者を受け入れやすくなる仕組み作りが急務です。

不動産事業者など29名
が参加しました。



○参加者の声

- ・どのようにすそ野(参加者)を広げていくか、支援対象者への制度周知をどのようにしていくかの検討もあればと思います。
- ・熱意が伝わる良い勉強会でした。
- ・少子高齢化における賃貸マーケット縮小と築古の物件のマーケットの掘り起こし等参考になりました。
- ・高齢者や困っている方の居住先を不動産事業者と一緒に考え福祉との連携を支援することは素晴らしいとおもいました。

② 第3回居住支援に係る勉強会(2025年11月13日)

○講義:(公社)かながわ住まいまちづくり協会 入原 修一 氏

◆ 居住支援の本質と“事業”の意味

居住支援とは、居住支援協議会とは、

居住支援協議会が行う事業の意味についての講演

○ワークショップ「八千代市らしい居住支援の“動き”を描く」

千葉県、市原市、市川市、
UR、八千代市社会福祉協議
会、千葉保護観察所など 32
名が参加しました。



4 グループで八千代市の「動き」マップ「感じる・関わる・動く・変わる」についてワークショップを行いました。

各グループの意見も紹介します。

・「感じる」=努力して広げていく、人材を育成する

・「関わる」=身寄り無し問題どうする、8050世帯の激増に伴う問題が多い、単身高齢者が激増

・「動く」=横つながりにつなぐ⇒体制つくる、今のネットワークを広げる

・「変わる」=ずっと住んで居たい 居心地の良いまち、人と人との役割分担

その他にも沢山の意見があり活発なワークショップになりました。

その後、出てきた言葉から見える方向性について、入原氏を交えまとめを行いました。その中で記憶に刻まれるワードは、住まいは生活の一部という共通認識のもと、庁内関係課・民間事業者 ともお互いの得意分野(本来業務)を活かして、つながる！つながる「手段」、様々な職種・立場の方々が意見を出し合う「場」が『居住支援協議会』です。(かたちは自由 仲間づくりの場)です。

○勉強会で分かったこと

1. 住宅と福祉の間にある「ちがひ」を埋めることが大切です

- 住宅を管理している会社や大家さんが、住まいを支える会(居住支援協議会)の活動に共感し、協力してくれるかが、支援がうまくいくポイントになります。

2. お互いの「できること」や「得意分野」を知ることが支援の第一歩です

- 勉強会に参加して、顔の見える関係(実際に会って話すこと)が大事だと感じました。

3. 「困っていること」をしっかりと聞くことが大切です

- 不動産の担当者は、まず利用者が何に困っているのかをしっかりと聞き取ることが重要だと感じました。

4. 相談先を一つにまとめた窓口が必要です

- 「どこに相談すればいいか」だけでなく、実際に必要な支援までつなげてくれる窓口が求められています。情報を伝えるだけでなく、手助けができる体制が必要です。

5. 勉強会自体が支援のはじめの一歩になっています

- お互いの疑問や悩みを話し合い、他の参加者からの助言で解決できることが増えました。

いろんな立場の人が集まるこの勉強会は、住まい支援を行う会として、すでに大切な役割を果たし始めていると感じました。

八千代市都市整備部建築指導課

〒276-8501 千葉県八千代市大和田新田 312-5

TEL047-421-6773